

公営企業水道事業の決算報告

▼問合せ 上下水道グループ ☎079(435)2379

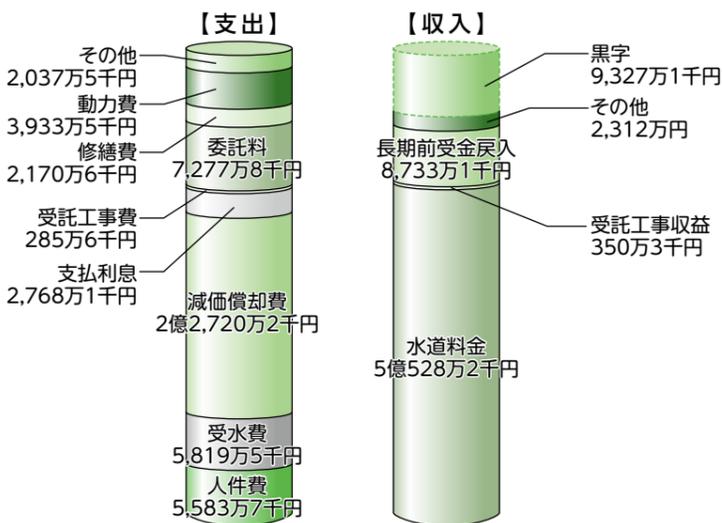
水道事業は独立採算制

水道事業は、「地方公営企業」として法律により税金を使わずに、使用者の皆さまからいただく水道料金により運営するように定められています。これを「独立採算制」といい、税金や国などの補助金などで運営される町の会計とは全く違った運営形態となっています。

また、会計方式は企業会計方式をとっており、「収益的収支」と「資本的収支」の2本立てで会計処理し、民間企業のように財務諸表と呼ばれる「損益計算書」や「貸借対照表」を作成しています。

収益的収支 (税抜き)

水道料金による収入と、水を作ったり家庭に送ったりするための維持管理経費などを中心とした営業活動の収支

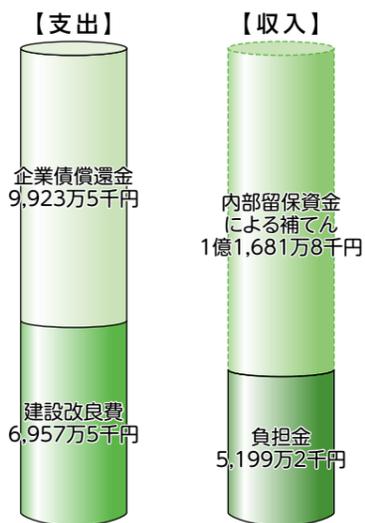


収益的収支 (税抜き)

平成28年度は、収入の柱である水道料金収入が5億5,282万2千円で、前年度比10万9千円の増額となりました。その他、受託事業の増加により受託工事収益が3,500万3千円で、前年度比282万9千円の増額となり、営業収益は5億1,513万1千円で、前年度比5,485万5千円の増額となりました。また、営業外収益として、長期前受金戻入の科目について、8,733万1千円を計上し、前年度比2,704万4千円の増額となりました。よって、総事業収入は6億1,923万6千円で、前年度比5,549万9千円の増額となりました。

資本的収支 (税込み)

古くなった水道施設の改良や新しい施設を作るために必要な資金の収支



また、企業債の元金償還分として、9,923万5千円支出しました。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額1億1,681万8千円は、内部留保資金で補てんしました。

今後の事業展望

水道事業では、コスト縮減を徹底して進めてきましたが、給水収益は、節水機器の普及により、平成9年をピークに減少傾向が続いており、当時と比べると1億円以上の減収となっています。また、全国的に人口の減少が予測される中で、給水収益は、今後さらに減少することが予想されます。

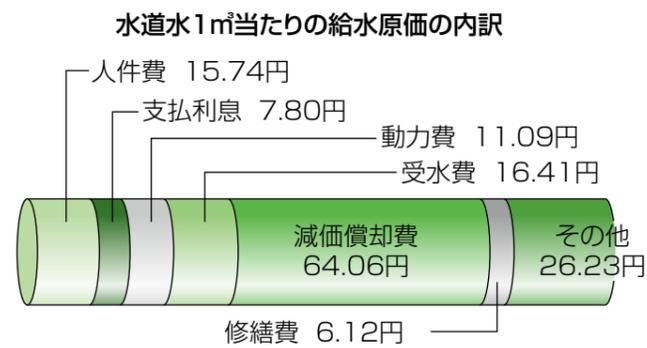
一方で、昭和50年頃からの人口急増期に布設された配水管の

給水原価と供給単価

給水原価とは、水1m³を作るのに必要な費用のことで、平成28年度決算では147.45円（長期前受金戻入の影響額除く）になりました。

一方で皆さまからいただいている1m³当たりの水道料金（供給単価）は、同決算では142.46円となり、給水原価が供給単価を約5円上回りました。

つまり現状では、水1m³給水するごとに約5円の赤字になります。



資本的収支 (税込み)

収入は、町の事業などに伴う工事負担金、水道を新規に開設する際に必要となる加入分担金や給水装置負担金などが5,199万2千円となり、前年度比1億1,589万9千円の減額となりました。

支出については、配水管の新設、老朽管の布設替・改良、第3浄水場施設の更新などを行い、建設改良費は6,957万5千円となり、前年度比7,352万1千円の減額となりました。

なお、第2配水池耐震補強工事に係る予算1億1,200万円については、翌年度に繰越を行いました。

用語解説

- 受託工事収益** 依頼を受けて実施する配水管の移設などによる収益
- 長期前受金戻入** 償却資産の取得または改良に伴い収入する工事負担金などを「長期前受金」として負債（繰延収益）に一旦計上し、その中から当該年度の減価償却見合い分を収益化したもの。収益として計上していますが、資金の裏付けはありません。
- 人件費** 水道事業所で働く職員給与・賃金など
- 受水費** 兵庫県から水道水を買った費用です。播磨町は約9割を井戸水でまかっていますが、井戸の延命を図り、また災害などの緊急時に備えるため、一部を兵庫県から購入しています。
- 減価償却費** 施設の資産価値の減少分。将来、老朽化した施設を更新するための財源となります。
- 支払利息** 施設建設の際に借りたお金（企業債）の利息です。
- 受託工事費** 依頼を受けて実施する配水管の移設などに要する費用
- 委託料** 集金・検針業務やシステムの保守にかかる費用など
- 修繕費** 水道管の修理や古くなったメーターの交換などにかかった費用など
- 動力費** 浄水場のポンプなどを動かすための電気代や重油の購入費用
- その他** 水を作るために必要な薬品購入費、納付書などの郵送料や手数料などの事務的経費
- 負担金** 建設または改良工事のための工事負担金や新たに水道水を使う時に支払っていただいた加入分担金や給水装置負担金など
- 内部留保資金による補てん** 資本的収入額が資本的支出額に不足する額を、減価償却費など資産を再構築するために積み立ててきた資金などで補てんしています。
- 建設改良費** 古くなった水道管を付け替えたり、新しく水道管を延ばしたりするのに要した経費
- 企業債償還金** 施設建設の際に借りたお金（企業債）の元金返済分です。
- 経営戦略** 将来に渡って安定的に事業を継続していくための中長期的な基本計画で、施設整備投資などの支出と財源の見通しを均衡させた「投資・財政計画」が中心

- ① **配水施設の耐震化**
水道水の安定供給を目指して、第2配水池の耐震補強工事を行います。
 - ② **老朽管の更新**
人口急増期に布設された導・配水管が老朽化してきており、基幹管路や耐震性が低い管路を優先的に計画的に更新します。昨年に引き続き、古宮土山線（東野添）の配水管の布設替を行います。
 - ③ **基幹管路の整備**
安定給水を図るため、配水管の管網整備として野添城地区配水管接続工事を行います。
- ▼問合せ
上下水道グループ
☎079(435)2379

平成30年4月から 下水道事業が公営企業会計へ移行します

播磨町の下水道事業は、平成6年に供用を開始し、以後整備を行いつつ処理区域を広げ、平成28年度末時点で人口普及率は97.56%となっています。

しかしながら、今後、これまでに整備した施設などの老朽化に伴う更新費用の増大や人口減少、節水型社会への移行による料金収入の減少などにより、下水道事業を取り巻く経営環境はますます厳しくなることが予想されます。

このような状況の中で、今後下水道サービスを提供していただくために、下水道事業の経営状況や財政状態、資産などをより的確に把握し、経営の効率化・健全化を図ります。そして、将来に向けて、安定した持続可能な経営基盤の強化に取り組み、住民の皆さまに安全・安心で快適な下水道サービスを提供できるよう努めてまいります。